

負荷心筋血流シンチグラフィ（放射性医薬品： ^{201}Tl ・ $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -テトロホスミン・ $^{99\text{m}}\text{Tc}$ -MIBI）

心臓は血液を全身に送り出すポンプの役割をしています。この心臓を動かすためには、心臓の筋肉（心筋）に栄養をあげるための血流が必要です。心筋には冠動脈という3本の血管があり、この血管が細くなったり、つまってしまうと心筋に栄養がいかず障害が起きてしまいます。これが、狭心症や心筋梗塞という病気です。

負荷心筋シンチグラフィという検査は運動や負荷用の薬を使うことによって、狭心症や心筋梗塞が起こりやすいとされる心臓に負荷をかけた状態を作り出し、その時の心臓の状態（負荷）と安静にしている時の心臓の状態（安静）の2回検査を行い比較することで、画像の差により診断をしていきます。

◎検査の流れ（例： ^{201}Tl ）

※当院では薬剤による負荷で検査を行っています。検査で使用する薬の種類によって、時間や検査の順番が異なります。

午前に負荷の検査（1時間～1時間半程度）・午後に安静の検査（30分程度）を行います。

[午前]

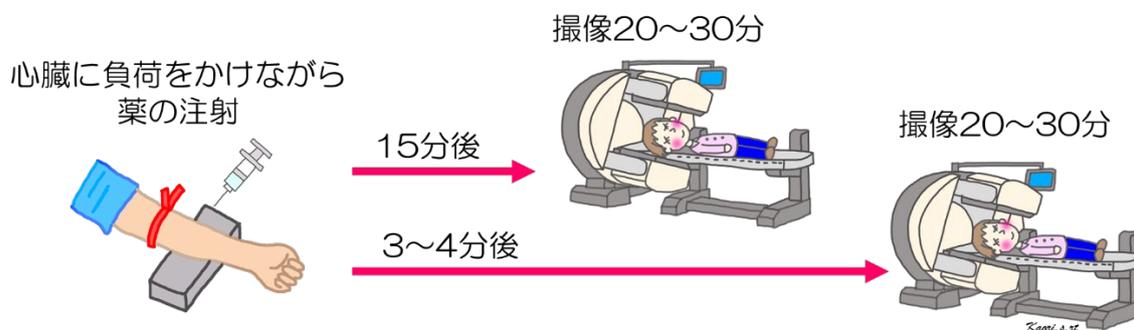
診察台に寝ていただき、点滴の準備・心電図・血圧の測定を行います。そして、循環器内科の医師により点滴で心臓に負荷をかけていきます。しっかりと負荷がかかったところで、放射線の薬を投与します。その後、撮影台に寝ていただき心臓の撮像をしていきます。

[午後]

撮影台に寝ていただき、午前と同様に撮像をしていきます。午後は安静の検査の為、注射等はありません。

撮像中は仰向けで挙上した状態で、動かずに寝ていただきます。仰向けが難しい場合は、検査が出来ないことがあります。予め主治医にご相談ください。

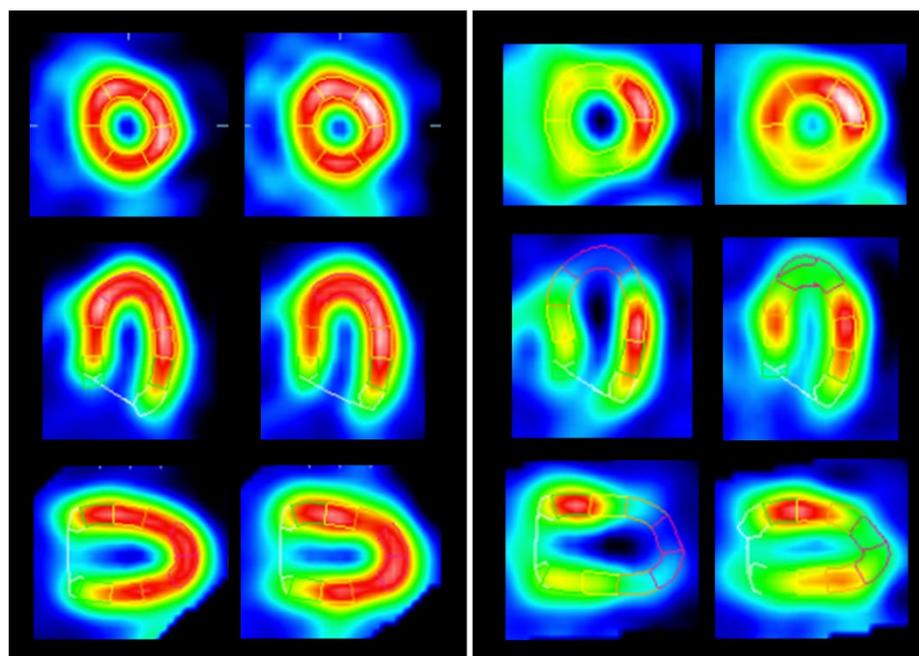
また、装置と装置で頭を挟む形で寝るため、閉所恐怖症の方はご注意ください。



検査当日の朝食は禁食です。また、前日からカフェインの制限もありますので、検査を受ける際は説明書をしっかりとお読みください。検査が始まると、終わるまで動けない状態とな

りますので、検査前は必ずトイレをすませてください。ご協力をお願いします。

◎負荷心筋血流シンチグラフィ画像のご紹介



正常

前壁中隔虚血

正常画像では、全体的に血流（赤）がある状態が分かるが、前壁中隔虚血の画像では、集積低下（黄→青）部分が多いことが分かる。